

# 歴史文化、まち歩きの魅力発信

## 「諏訪絵双六」作成へ



「諏訪今昔絵双六」の作成に向けて開かれたキックオフミーティング

諏訪の歴史文化、まち歩きの魅力を伝える「諏訪今昔絵双六」(仮称)の作成に向けたキックオフミーティングが28日、諏訪市駅前交流テラスすわつチャオであった。創価大学(東京都)と関西学院大学(兵庫県)の学生が、地域住民と協力して新たなつながり、気付きを広げ、地域振興につなげたい考え。今冬に女子学生が見学した諏訪湖での御神渡り観察などを掲載し、来年1月の完成披露を目指す。(小山真由美)

### 大学生らと住民が協力

#### キックオフ

#### ミーティング

マスに載せる情報は、同市のJ・R上諏訪駅周辺が中心。諏訪地域で受け継がれてきた歴史文化を掘り起こし、観光、食、イベント、豆知識などを合わせて記録する。作成を通して、地域住民の新たなネットワークを構築する狙いもある。

以前から創価大と交流のあった八剱神社(同市)の宮坂清宮司が表紙の文字を担当する。地元ラーメンチェーン店みんなのテンホウのキャラクター「てんつるくん」を採用するなど、観光客だけでなく地域の幅広い世代が手にするすごろくにしていく。

初会合では、女子学生、シニア大学の卒業生、大昔調査会と市社会福祉協議会の関係者、地元のグラフィックデザイナーら計15人が、オンラインも活用して参加した。掲載情報として、諏訪湖底の曾根

遺跡、高島城、リノベーションカフェ、諏訪湖のトライアスロンなどが提案された。若い世代に向けてQRコードを活用し、映像や音を取り入れるなどのアイデアもあった。計画では英語版も含めて1万部作成を目指し、無料配布する。来春には絵すごろくを使ったウォーキングイベントを実施する予定。

創価大の西川ハナナ准教授「諏訪市出身」は「地元の人々が諏訪の良さを再確認できる絵すごろくとなり、観光客にも発信できれば」。関西学院大の安藤幸准教授は「地域の活動、交流に学生が興味を抱いている。まち歩きができる楽しいものになりたい」と話した。